アフタヌーン 四季賞 2015年

春のコンテスト 最終選考結果発表

応募総数 ▶▶▶▶▶▶ 137本

鶴田謙二氏 選評

今回候補に挙がった作品はドングリの背比べ状態でした。とは言え、突出した作品がない代わりに全体的にレベルが高かったので、「大きな」ドングリの背比べ、という印象です。ストーリーの規模が小さい、身近な題材を取り扱った作品が多かったように思われるので、スケールの大きめな作品に着目しました。というか、結果的に目立ちましたね。誰も考えたことのないような作品を描いたものがなかったのが少し寂しかったです。

編集長 選評

「選考会まで毎日順位について悩み続けた」と鶴田さんは最終選考会でおっしゃっていました。毎日何時間も応募作を並べ替えては、ああでもないこうでもないと順位を上げたり下げたりされていたそうです。応募作と真剣に向き合うことは当たり前のようでいて、なかなか難しいこと。鶴田さんの言葉はとてもありがたく、うれしかったです。未来の漫画家を生み出すために選考委員と編集部が真摯に真剣に応募作と向き合うのが四季賞です。その分、評価は手厳しくなるかもしれませんが、そこはご容赦ください。

テーマ、設定の大小は別として、自分にしか描けない世界、感覚を思いっきり詰め込んだ応募作をお待ちしております！

『世界の夜の片隅で』

四季大賞 賞金100万円 1名

36ページ

鶴田氏コメント
素晴らしい作品でした。冒頭はよくある感じの始まり方ですが、読み進めていくうちにどんどんストーリーに引き込まれていきました。ちゃんと人を観察できているように思いましたし、伸びしろも感じるので、今後にとても期待できます。

全てのコマにわたってハイレベルな作画。人物の表情の一つ一つに味があり、描くべき絵をほとんど間違わなかったという印象です。さらに特筆すべきは「気になる存在」の描き方。とにかくヒロインが存在感抜群で、情感だけでなくパワーにも溢れた作品です。（編集部）

現在発売中の「アフタヌーン6月号」に全編掲載!!

戸井理恵

東京都・30歳

コメント 受賞の知らせが最初は信じられなくて実感がわかなかったのですが、ようやく最近じんわりと嬉しさがこみ上げてきました。昨年亡くなった父が好きだった「絵を描く」ということを、これからも続けていきたいと思います。ありがとうございました。

鶴田謙二特別賞

賞金60万円
1名

429ページより全編掲載!!

『MERCY（マーシー）』 32ページ

志木浩雄（しきこうゆう） 大阪府・25歳

鶴田氏コメント

前回の選考の際も作品を拝見しましたが、やはり絵の才能は素晴らしいと思います。ストーリーも前半は良かったです。後半はやや分かりにくい展開でした。今後は、あまり描き過ぎずにストーリーを説明できるようにするのが課題ですね。

全てを描き切らず、余白を残した筆致が想像力をかき立てます。以前の投稿作では、ゴチャゴチャ見づらかった画面も、スッキリスタイリッシュになり、魅力的になりました。（編集部）

コメント 本当の幸せは一瞬で過ぎ去ります。新たな悲しみが来る前に新しい物を作り備えなければならないのです。今回身に余る賞を頂き幸せです。ですから描かなくてはなりません。

四季賞

賞金60万円
1名

『いんへるの乙女（おとめ）』 36ページ

小松ふみ（こまつふみ） 東京都・23歳

5月25日発売の「アフタヌーン7月号」に掲載予定!!

キャラクターが発する色気と、言葉選びの上手さが際立つ、まさに「知らない世界に連れて行ってくれる」漫画です。コマ割りや構図を整理して、さらに先の世界を見せてほしい！（編集部）

鶴田氏コメント

絵はまだまだですが、伸びしろは抜群だと思います。井戸の中で寝ている絵が良かったですね。題材も今までのマンガにない斬新な視点だったのが好評価です。そして、セリフが物凄く上手い。これはセンスだと思います。

コメント 漫画を描くことに、理想と現実のギャップの大きさに苦しむのですが、今回賞を頂いたことで、一度冷静に今の自分の漫画と向き合う事ができました。ありがとうございました。

選考会こぼれ話

某日、約2時間かけて最終選考が行われました。「1週間、毎日のように候補作品を読み返して順位を考えていた」という鶴田さんの愛と熱意が会議室を包み込み、いつにも増して盛り上がった選考会となりました。その後の慰労会でも作品を巡り熱い話が続きましたので、ここではその一部を紹介いたします！

こういうコマが気になる！

大賞を受賞した『世界の夜の片隅で』で良かったのは、「置くべきところに絵がある」と感じられたことです。漫画というのは、一般的には「引き」の絵で場面を説明して、それからUP（アップ）の絵でキャラクターの表情を説明していく、という流れで展開されていくと思うのですが、UPの絵からフッとカメラを引いた時のコマにしっかり背景が入っていたりすると、僕は読んでいて嬉しくなるんですよ。

「さりげないけれど印象に残るコマ」が個人的には好きですね。演出として「見て！」と自己主張しているコマは確かに印象には残るけど、それは漫画家であれば誰もが最低限やるべきことだと思う。そうではなくて、例えば35ページ目の最後のコマのようなキャラクターの表情がしっかりしている小さいコマに良さを感じます。

ところで、この作品はところどころで自分の頭の中を一生懸命に追わずに描いているように感じられる箇所もありました。

準入選
賞金各30万円
4名

『In a Frame』 43ページ
よしたに深夜　神奈川県・36歳

小さなエピソードを積み重ねて、登場人物の心情を丁寧に描いた本作。嫌味なく読めるさわやかな話運びが高評価を得た。（編集部）

鶴田氏コメント
ストーリーは候補作の中で最も良かったと思います。ただ、話をキレイにまとめようとし過ぎているような感じがしました。エピローグはなくても良かったかもしれません。

コメント 今回デジタル原稿作業の難しさを改めて思い知った次第です。準入選受賞の報は驚きと共に大きな原動力になりました。感謝しきり。

『ティンダーボックス』 72ページ
和歌山 佳　東京都・28歳

鶴田氏コメント
絵がとても上手で（特にメガネ）、キャラクターも良く描けています。それだけに、ストーリーの甘さが目立ちました。作品についての客観的視点が欠けていて、説得力が弱かったように思います。

丁寧で完成度の高い画面が魅力の和歌山さん。次回作では、より読者をひきつけるキャラクターと場面演出に期待しています！（編集部）

コメント いろいろ課題が見えましたが楽しく描けた作品でした。次は掲載を目指します！ありがとうございました。

『イメージ映像でお送りします』 40ページ
村山 容　東京都・30歳

鶴田氏コメント
ネタとしてなかなかハードルの高いものだったと思いますが、「その一コマですべてが決まる」という場面をしっかり決められていて、面白く読めました。タイトルも良いですね。

結局は悪人になれなかった男と、そんな男の心を意図せず自分の態度だけで動かした女。そんな人間模様が気持ちいい。（編集部）

コメント 自分が書店で働いていた時の事を思い出しながら描きました。素晴らしい賞を頂き、嬉しさで一杯です。ありがとうございました。

『春風』 52ページ
瀬下 猛　東京都・31歳

鶴田氏コメント
完成度が高い作品。構成力・作画力、ともに素晴らしいです。ただ、ラストの展開を納得させるだけの工夫が足りないように思います。主人公の孤立感が弱いからでしょうか。

コメント これに満足せず、向上心を持ち続けて頑張ります。ありがとうございました。

面白い着眼点から迫力ある画面展開ができていて、楽しく読めます。ストーリーで読者を引き込むワザをさらに磨きましょう。（編集部）

イメージの再現性に拘れれば、さらに伸びると思います。

ネームを整理するコツ

四季賞の「いんへるの乙女」は、漫画としてはとても面白く読めたけれど、完成度はまだまだだな……と思いました。UPのコマは丁寧に描けていましたが、全体的に絵が主役になりきれていない感じがあります。描きたいものにテクニックが追いついていないように思います。が、だからこそ伸びしろに期待できますね。

アマチュア時代に僕が言われていたのは「2つのコマを1つにする努力をしなさい」ということで、それがとても役に立ちました。そうすると、画面も整理されてより読みやすくなると思います。「読み味」で持っているものを「ワザ」に変えていくことが必要ですね。

今回の中で一番読みやすいコマ割りだった作品は『春風』ですね。上手にコマ割りが出来ていたと思います。一方で、この作品はキャラクターの区別がついていないことがネックになっていたように感じられました。

これまで芸術的なテクニックで読者を魅了してきた鶴田さんならではの視点で解説をいただき、コマの配置の仕方などの技術論で盛り上がりました。編集部員一同も「どうやったらより面白い漫画にできるか」という永遠の問いを、改めて考えさせられました。

ストーリーの組み立て方もコマ割りも頭を悩ませますが、「読者に楽しんで読んでもらいたい！」という強い熱意で創意工夫を楽しんでいけたらと思いました。（編集部）

佳作　賞金各10万円6名

『ケ・レジスタンス』

30ページ

絵に課題は残るが、「何者かでありたい」と願う思春期特有の思いを爽やかに描き出した。（編集部）

元住イオ　神奈川県・24歳

コメント　頭に描いたものを伸び伸び描ける表現力を磨きます。ありがとうございました。

『6億円使おう！』

32ページ

絵のオリジナリティは怪しい（笑）。しかしサービス精神盛り過ぎの作風は四季賞では新鮮！（編集部）

池本 紀　東京都・30歳

コメント　人生最初にアフタ様に持ち込んでから約10年紆余曲折初受賞、本当にありがたいです。

『そう死相あい』

32ページ

可愛らしい絵柄や、短いページできっちりとオチをつけているところは好感が持てる。子供の表現が秀逸。あとはオリジナリティのあるネタを仕込めるか。（編集部）

福井美貴子　京都府・30歳

コメント　幼女に重にと好きなものばかりを楽しく描かせていただいた上に、この様な賞をいただき光栄です。

『劣情オーバードーズ』

35ページ

ページを何回めくっても下ネタが終わらないというサービス精神。脳はそのままで絵を頑張って！（編集部）

木下龍太　東京都・19歳

コメント　この10万円が意義ある投資であったと思って頂けるよう、精進してきます。いや漫画描けよ。

『飼イ猫ノススメ。』

21ページ

お約束の展開だとわかっていても面白い。きちんと成立したコントの世界が好印象！（編集部）

秋津そたか　埼玉県・34歳

コメント　育児の合間に描いたものが受賞できビックリしてます。じわりとくる笑いが描きたいです。

『SWEET VENOM －Going Under－』

40ページ

荒削りだが、魅力的な絵。努力と変化と洗練を期待します。（編集部）

柴田啓介　東京都・26歳

コメント　主人公の成長よりヒロインのおっぱいが気になる。そんな漫画です。四季賞の懐の深さたるや。

2015年 四季賞［春のコンテスト］鶴田謙二特別賞　受賞作

鶴田謙二氏、感嘆！

絵が素晴らしい。才能が素晴らしい。もっともっといいものが描けるはず。

またまた！ 四季賞発！
新たな才能が続々!!

志木（しき）浩雄（こうゆう）

さて
諸君に質問だ
NO GODS OR MANS.
ONLY SIN.

500年前
最初の不死者が
この世に降りたった時
諸君は何と言った?
富者は言う
それは私の肉体に
役立てるべきだ!
貧者は言う
それは金のなる木だ!
Death of faith
そして両者は言う
罪は神の名のもとに
赦される!

ああ罪人よ祈れ
神に祈れ！

裁きの日まで!!

我々教会は不死者
あるいはそれに類する思考を
持つ者をこれからも
より厳しく検束する

では！

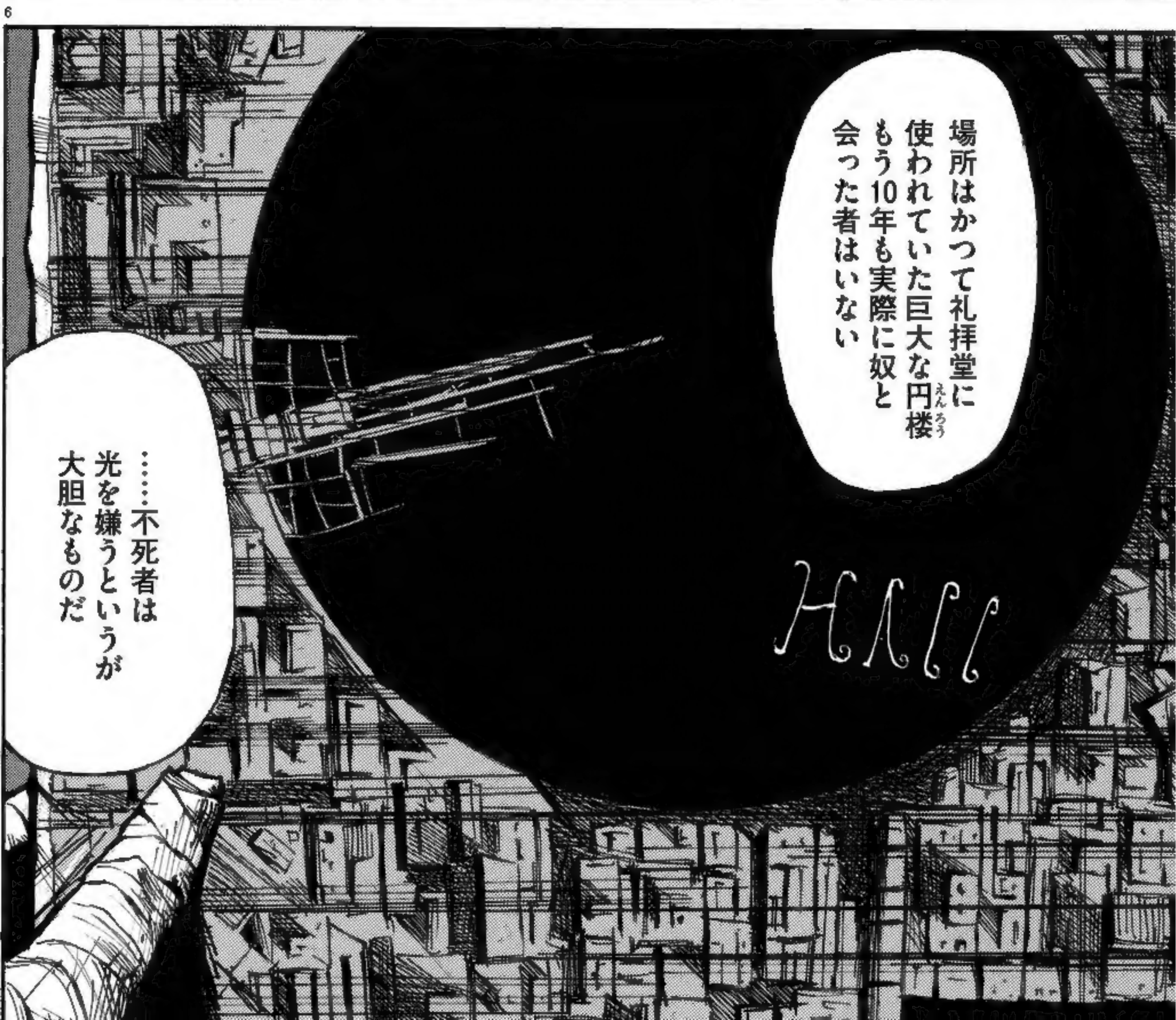
では諸君!!
神の恩賜あらんことを

カッ

パサッ

不死者がでた

先程映っていた男
ガブリコ・タリミーニャ
枢機卿ゆえ探知が
遅れた

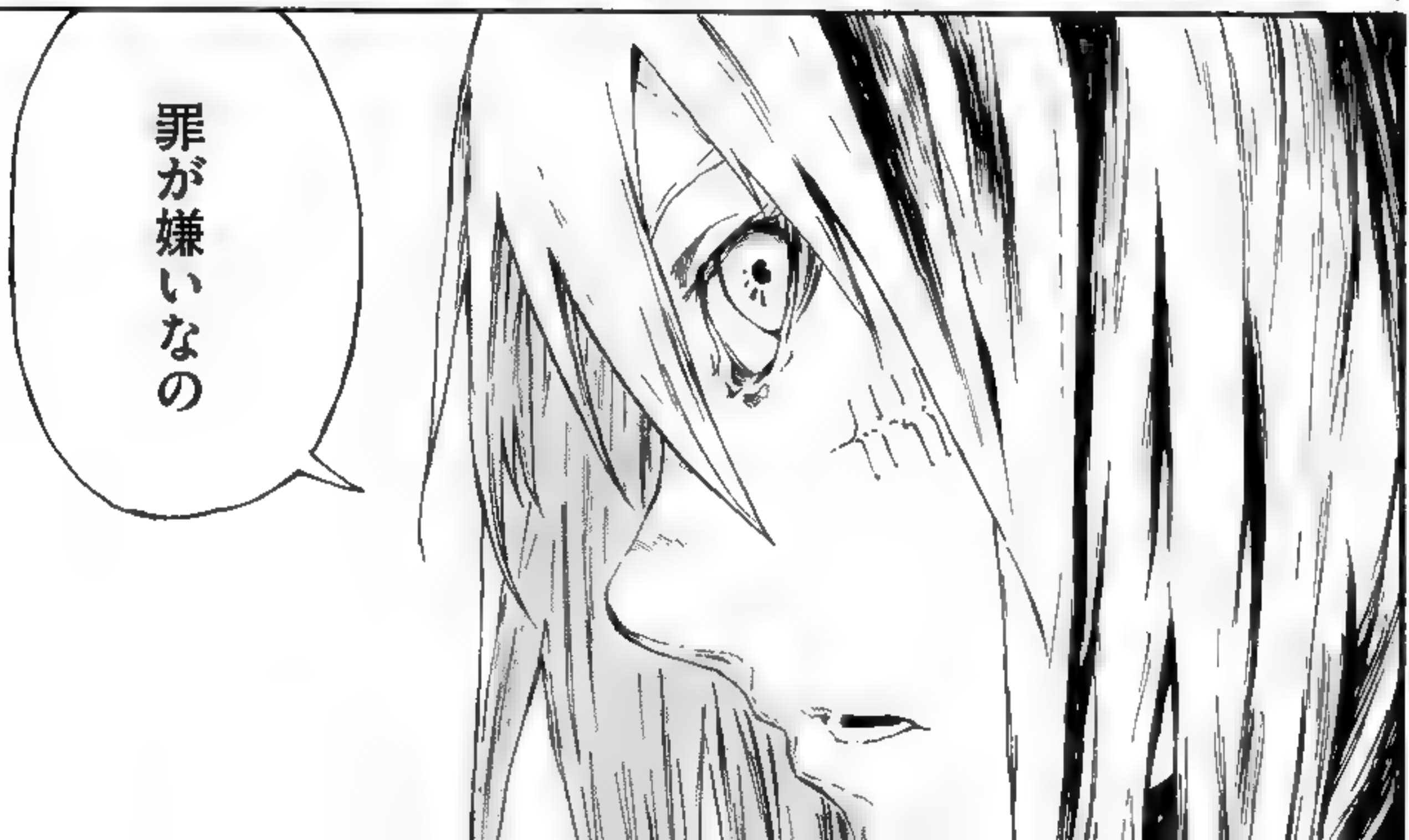
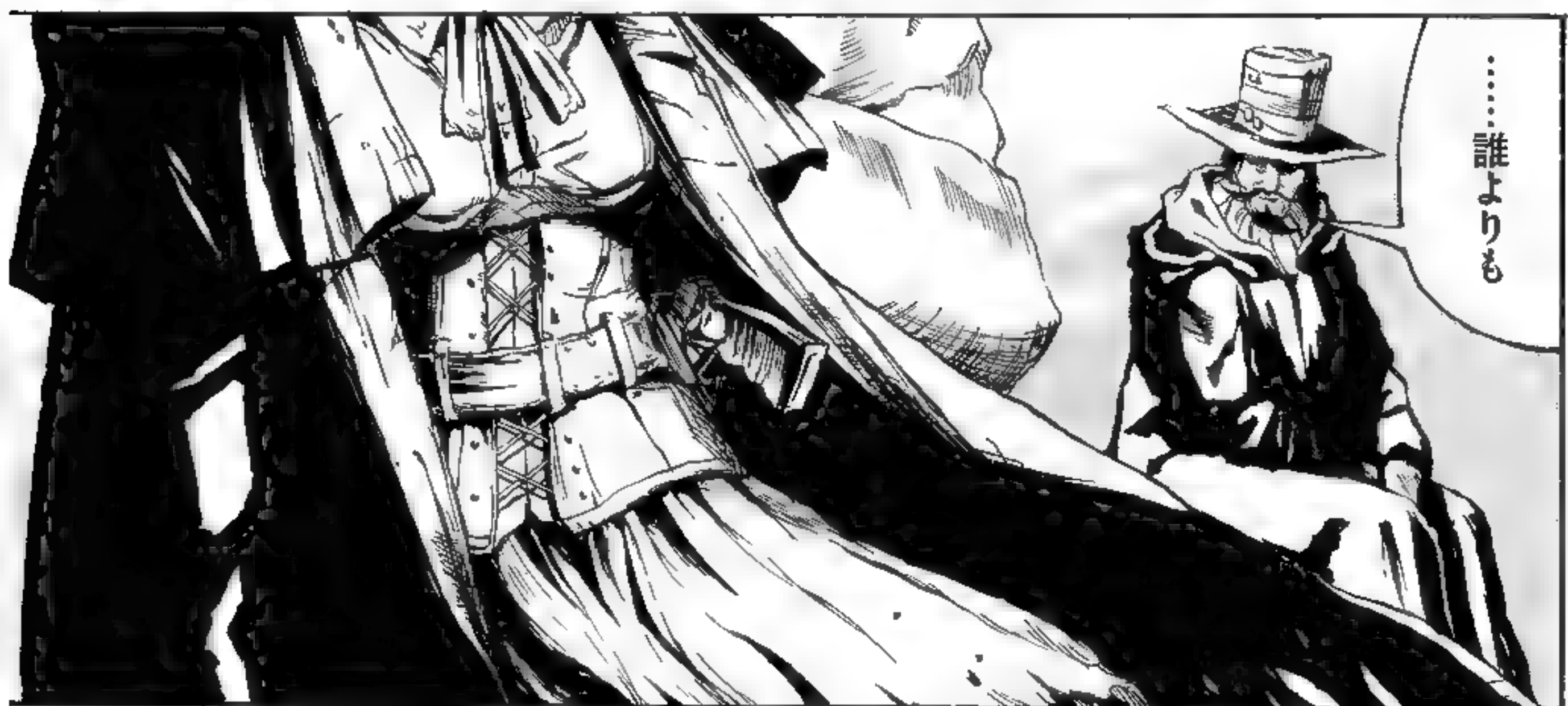
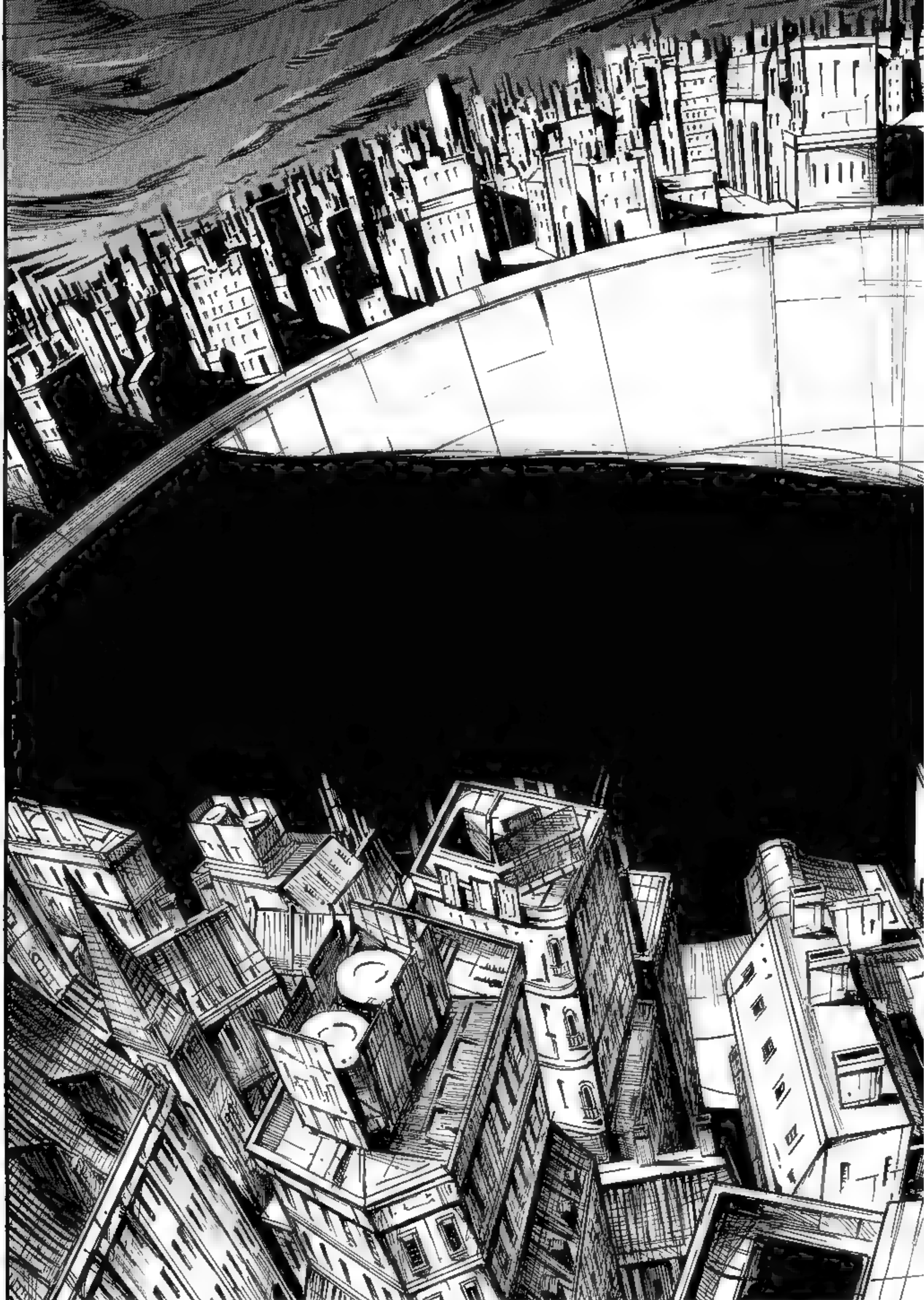
奴はその立場を利用し
不死の研究材料に信徒達を
あろうことか不死の名目で
大量に連れ去っている

場所はかつて礼拝堂に
使われていた巨大な円楼
もう10年も実際に奴と
会った者はいない

HALL

……不死者は
光を嫌うというが
大胆なものだ

不死ってのはどんな感じなんだ？
……なあ
スッ

……誰よりも

罪が嫌いなの

作者近況
志木浩雄

すっかり暖かくなりました。穏やかな昼下がり。今も優しい木漏れ日が、閉め切ったごみ溜めのような、いえ、糞部屋に差し込んでおります。環境を、社会を呪うと同時に、同じそこに生きる人々の愛と優しさを感じる、そんな光景ではあります。

なに安心したまえ
心臓 肝臓 腎臓 胃
胆のう 大腸 小腸

あと
横隔膜 甲状腺 肺
大脳 小脳 脳幹

を
取り出せば君は自由だ
なにすぐ終わるよ

そうね

な 何者だ 貴様!!

is mercy has given

ポロッ

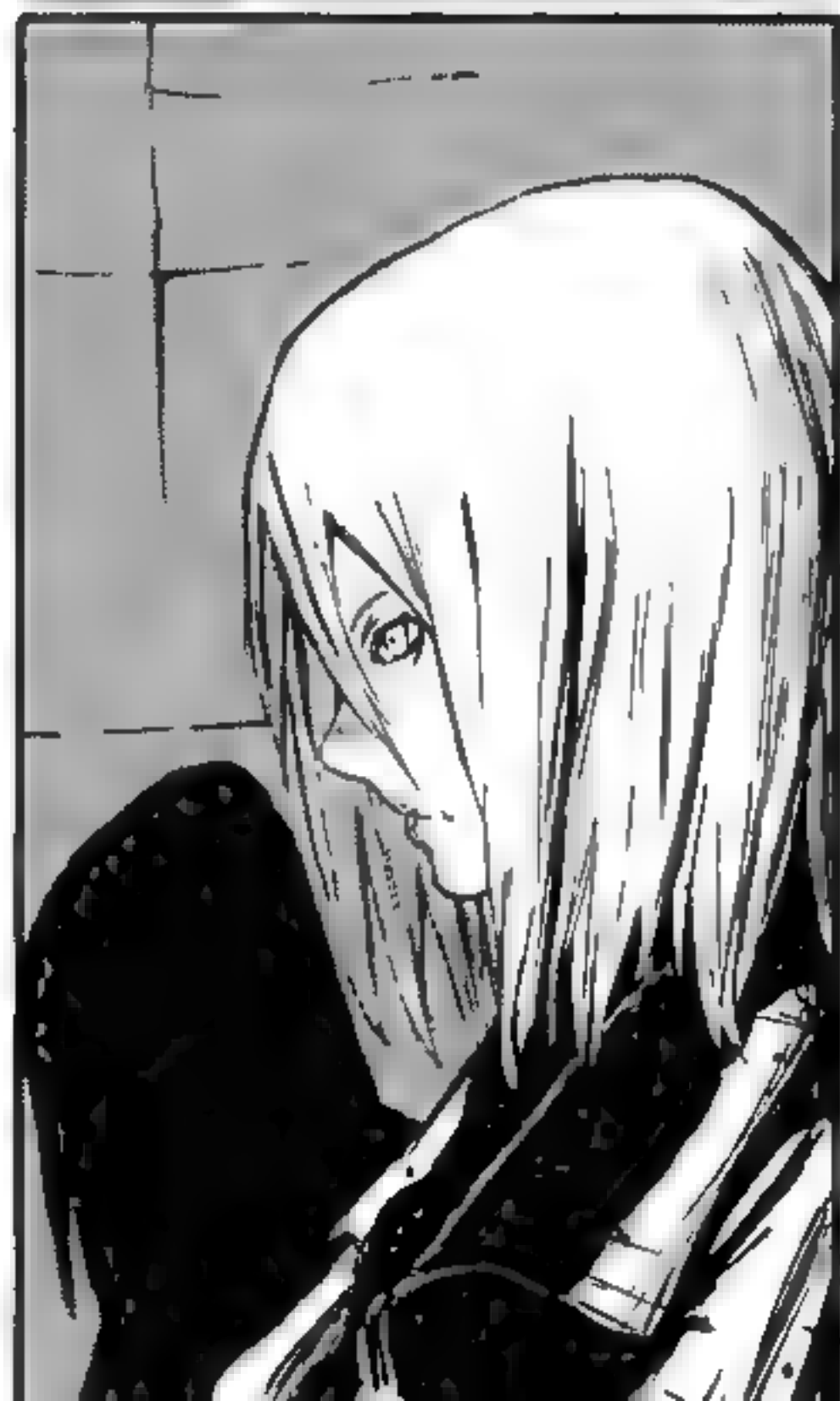
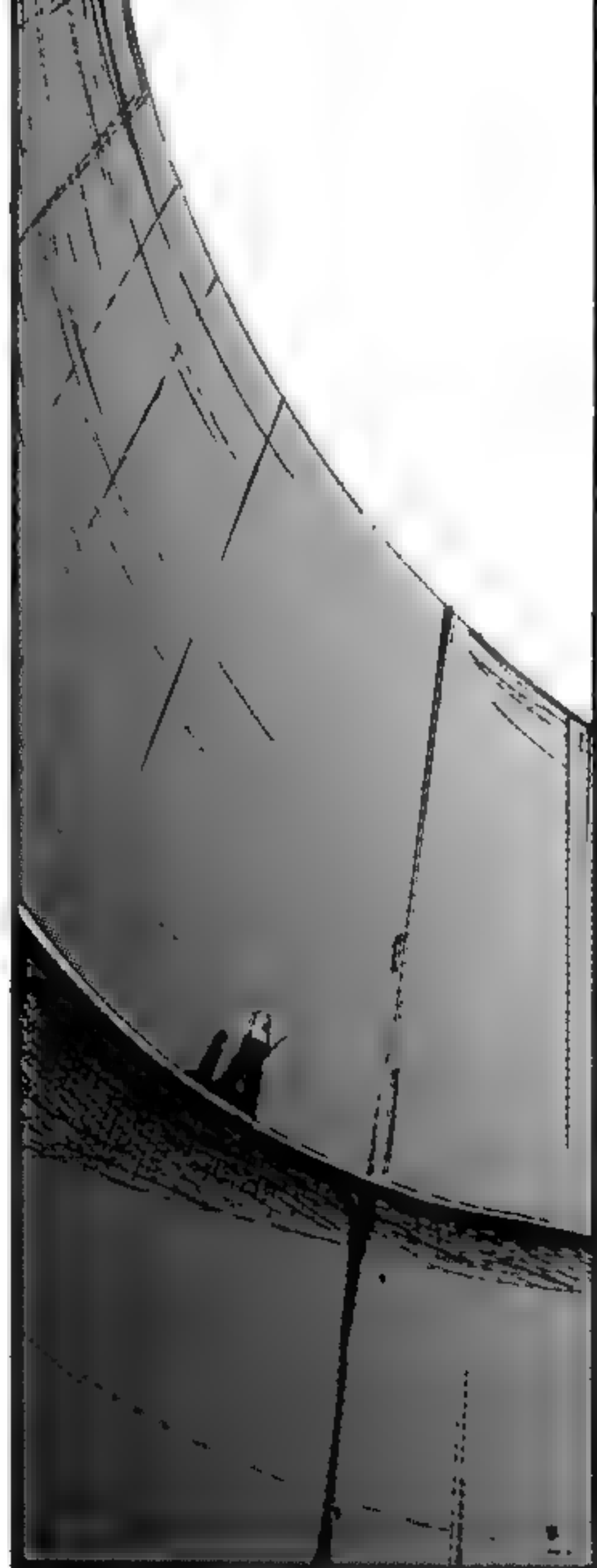
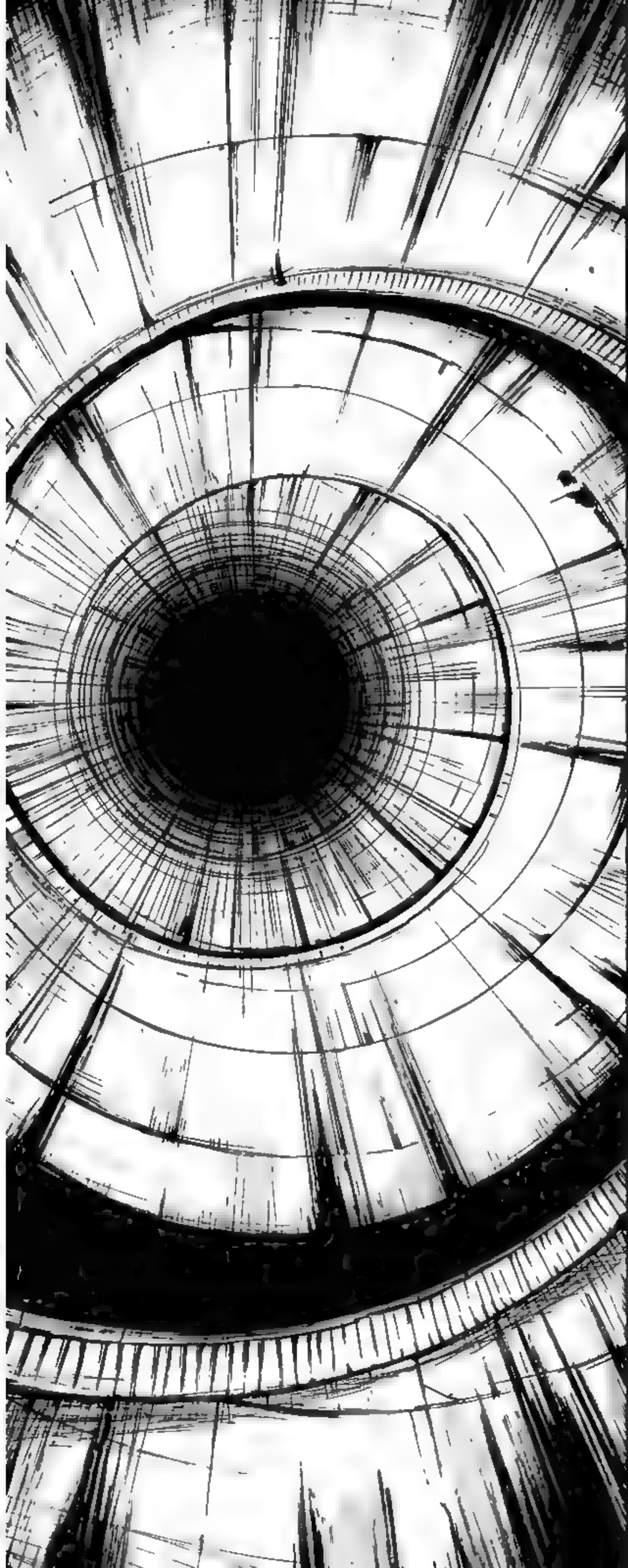
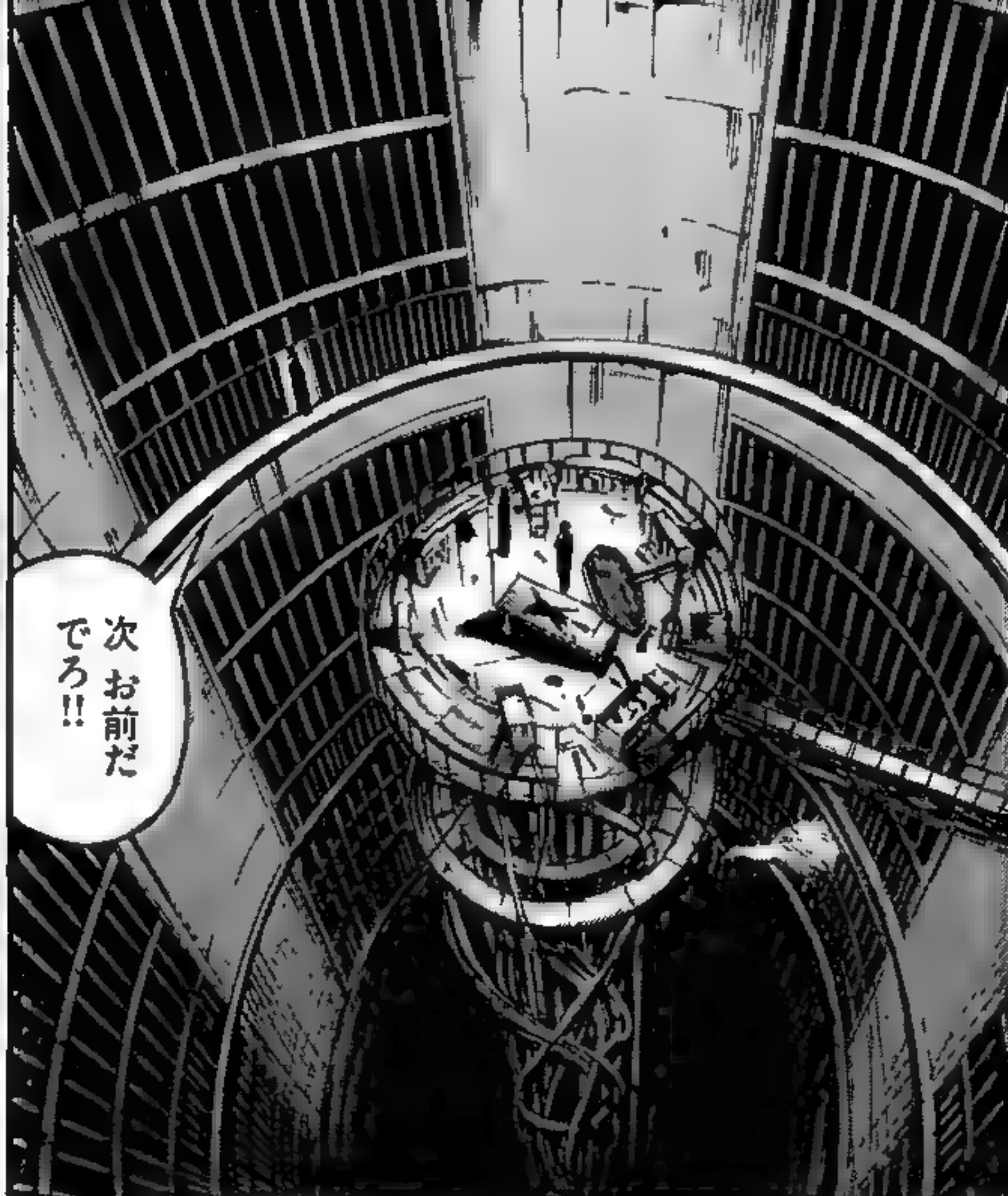
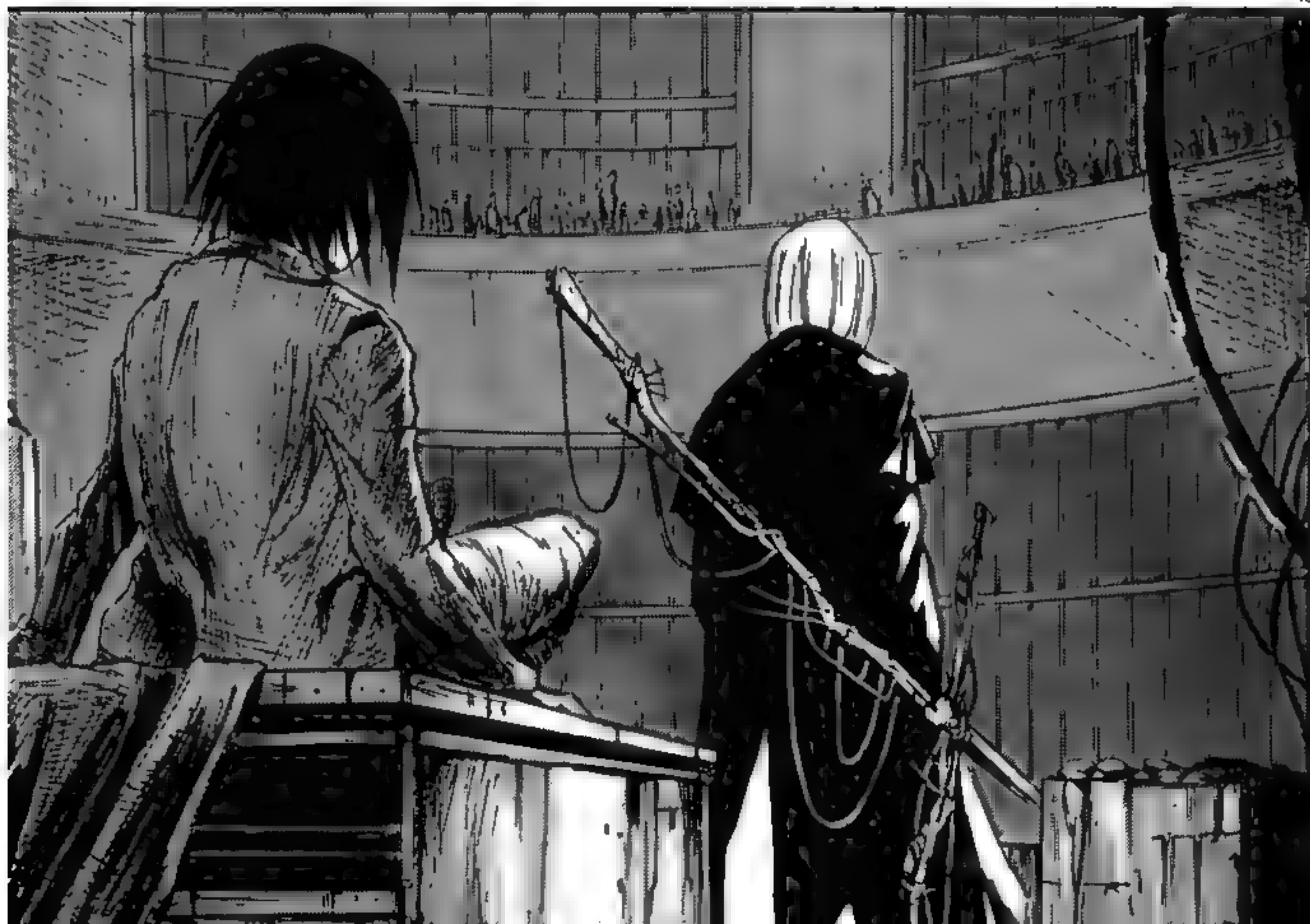
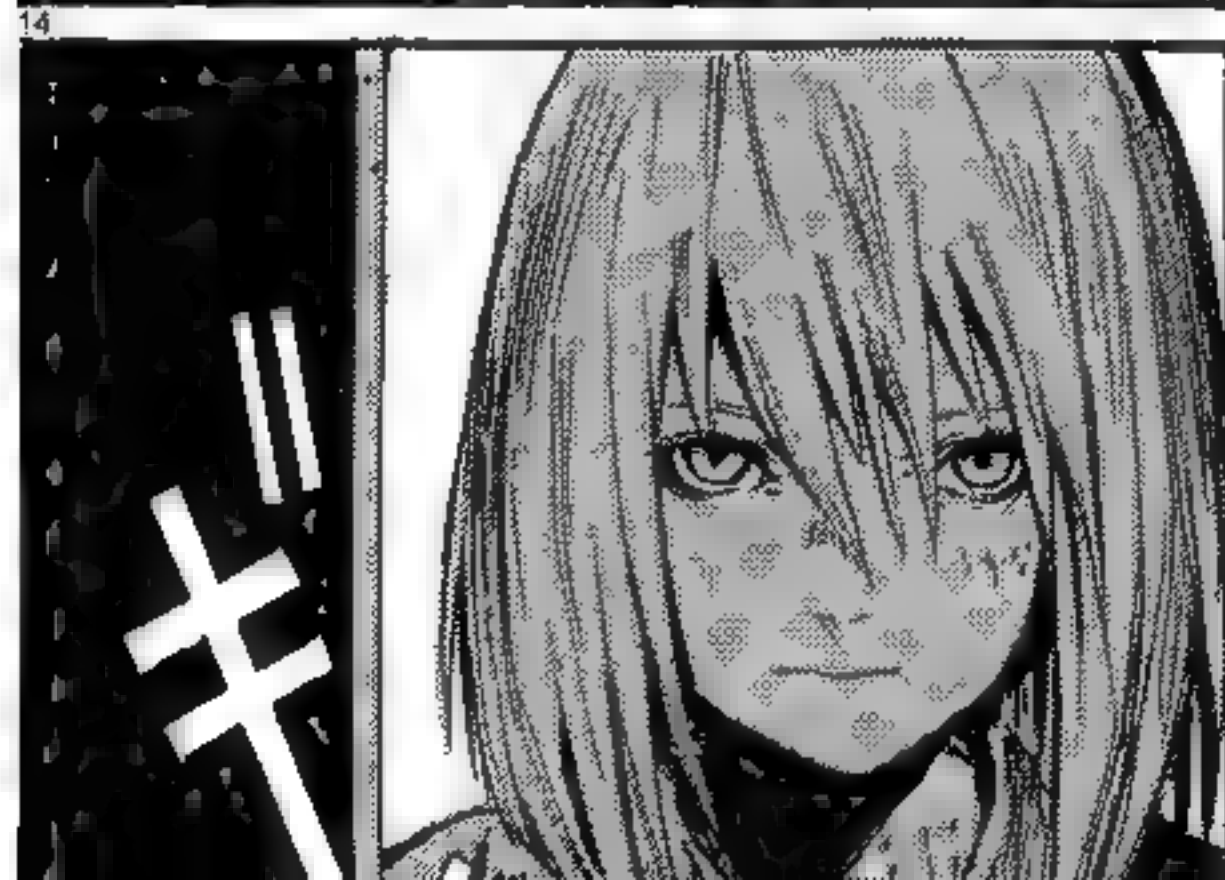
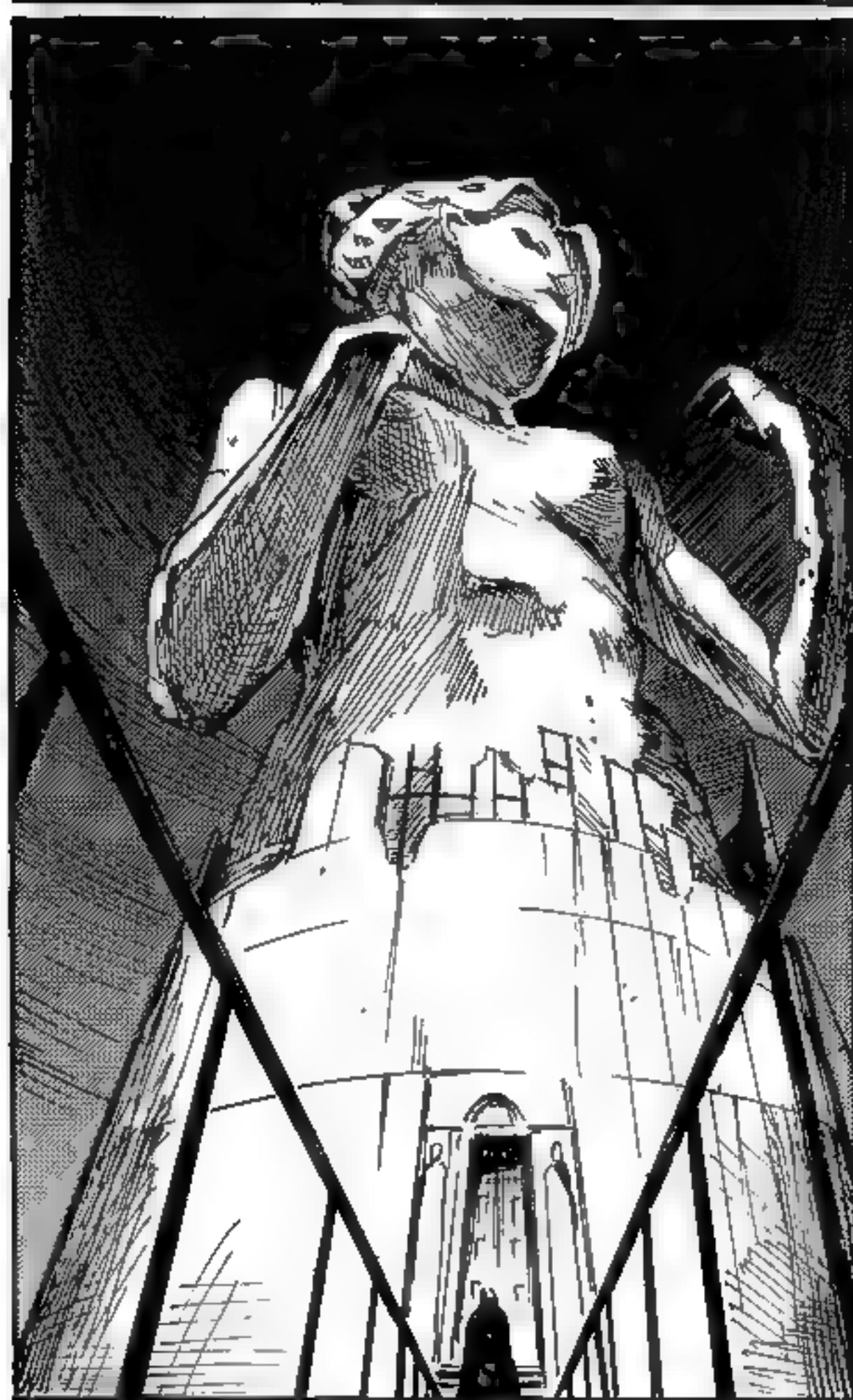
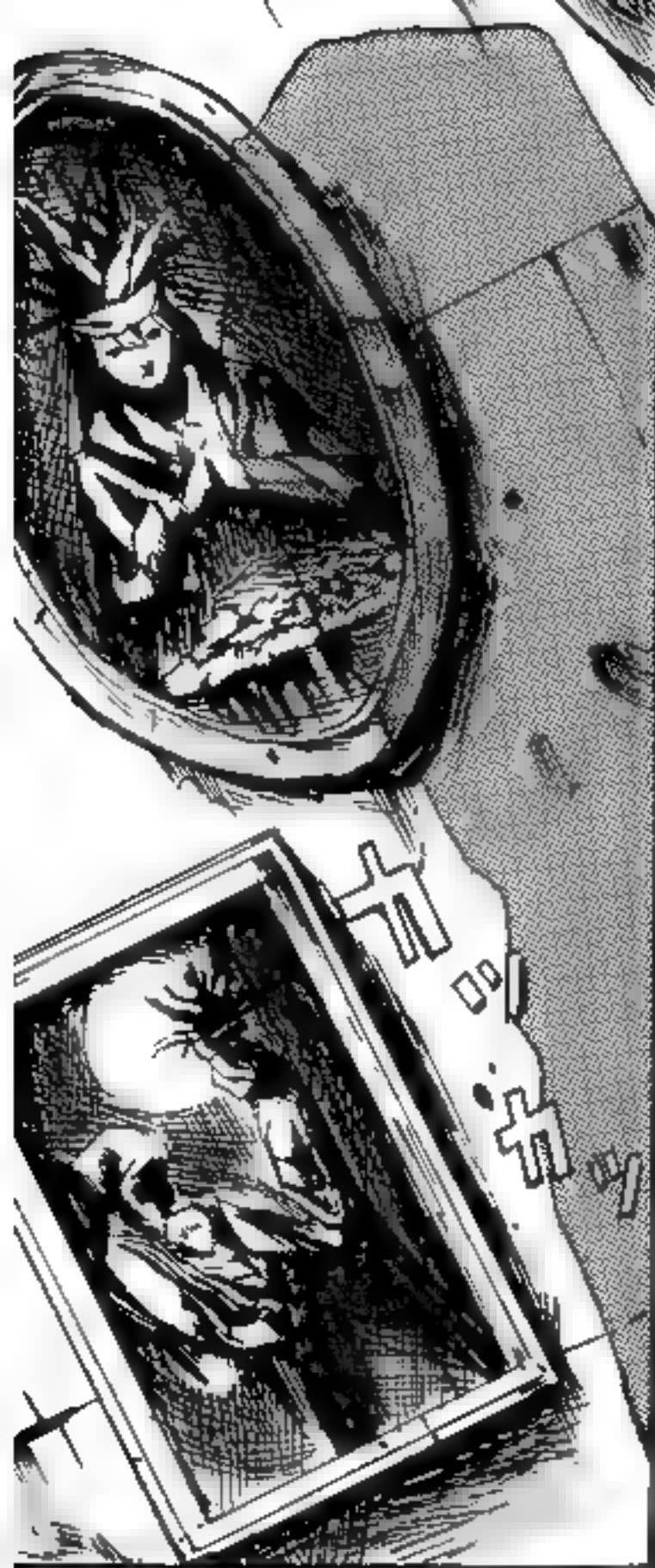
ドッ
ドサッ

ギ

ガロ…ガッ

ザザザ……神に……ザザ贖罪……
キル
キュル
死体……ザザ繋げ……ザザザ……

ザッ
……私は恋をした

最初の不死者に恋をした

いつかは日の光が穏やかに罪を照らし
流れる雲のように誰もが変わりゆく
ONLY SINS.
ならば私はここに留まろう

闇よりも暗く
深淵(しんえん)よりも深い
決して
光の届かない場所
虚無に

ズン
ズーー
ズ

!

タリミーニャ……

貴様
どこかで……

カチッ

カチ カチ カチ カチ

タッ

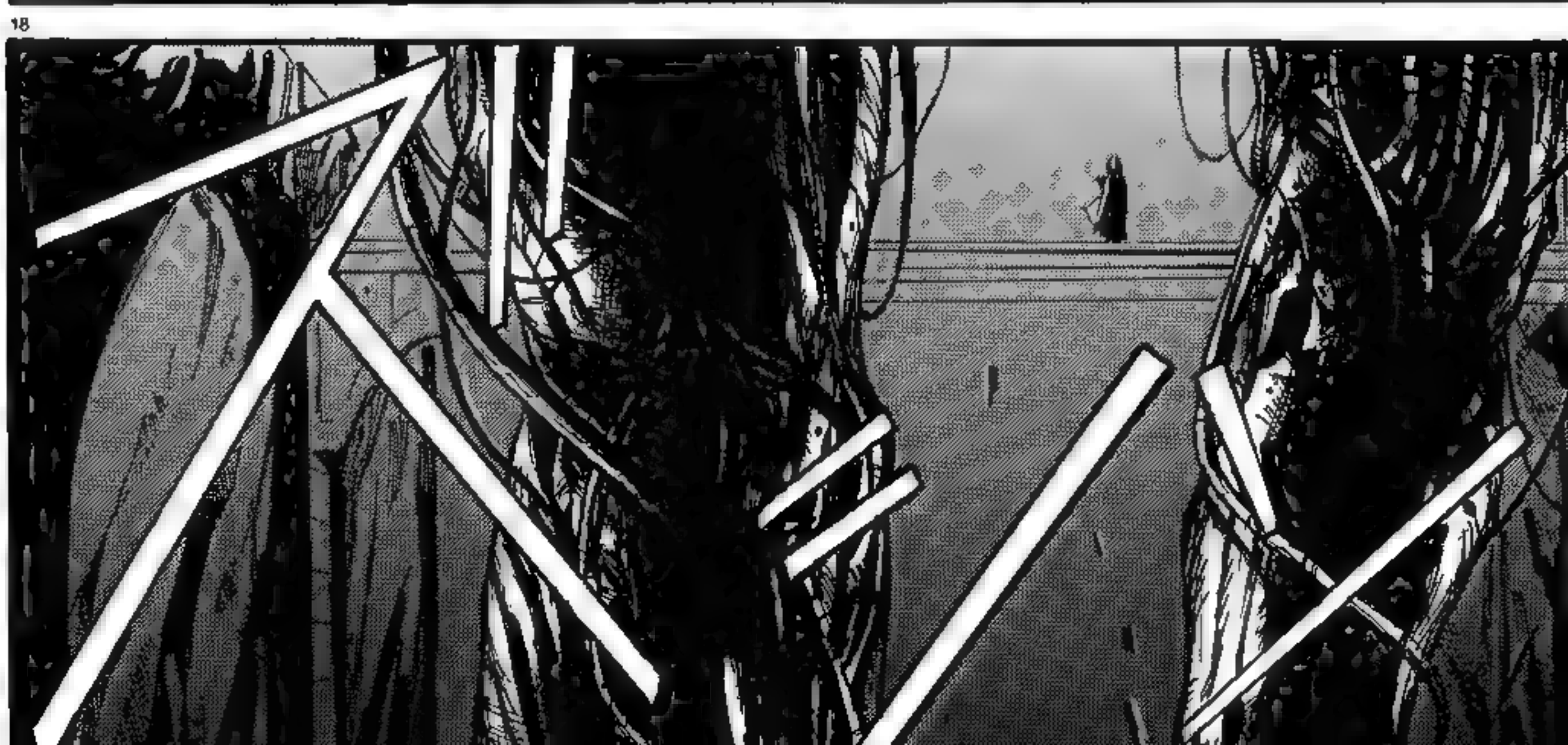
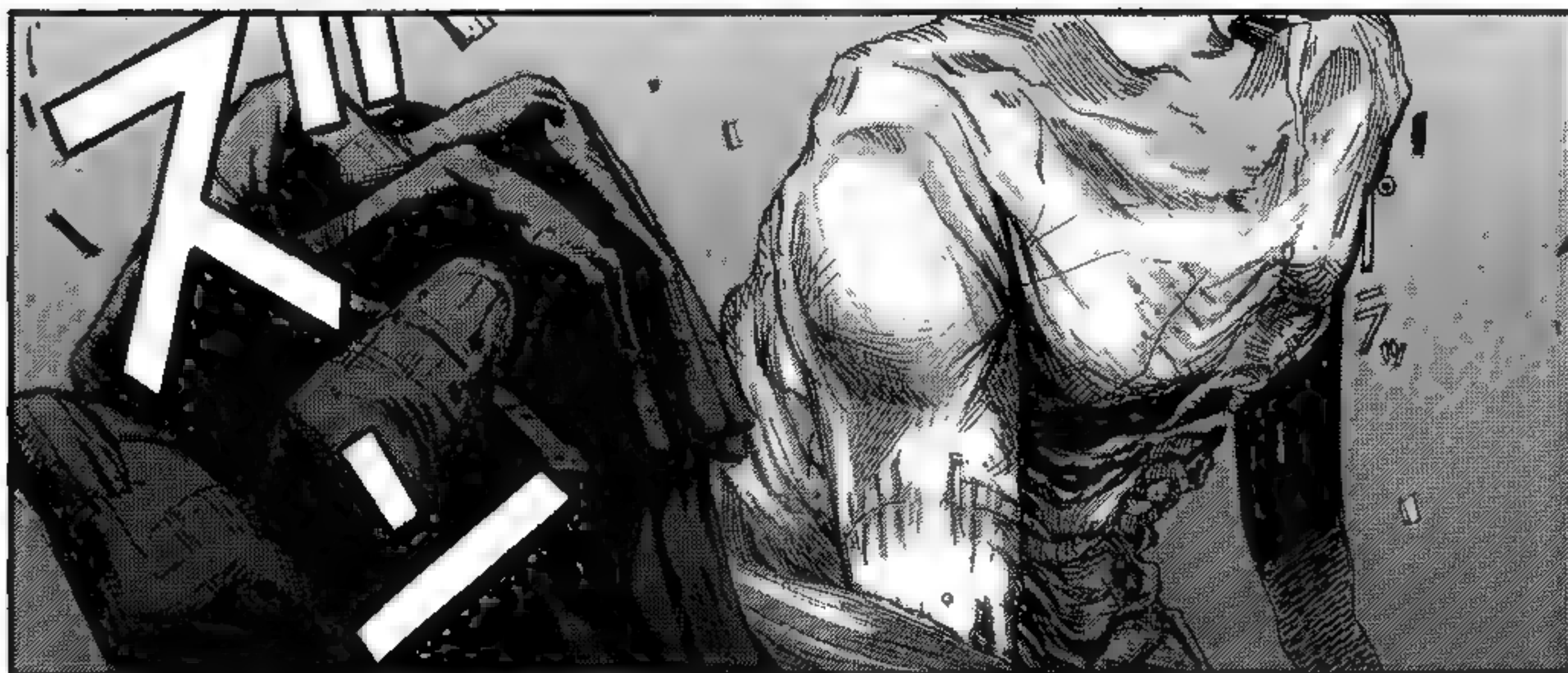
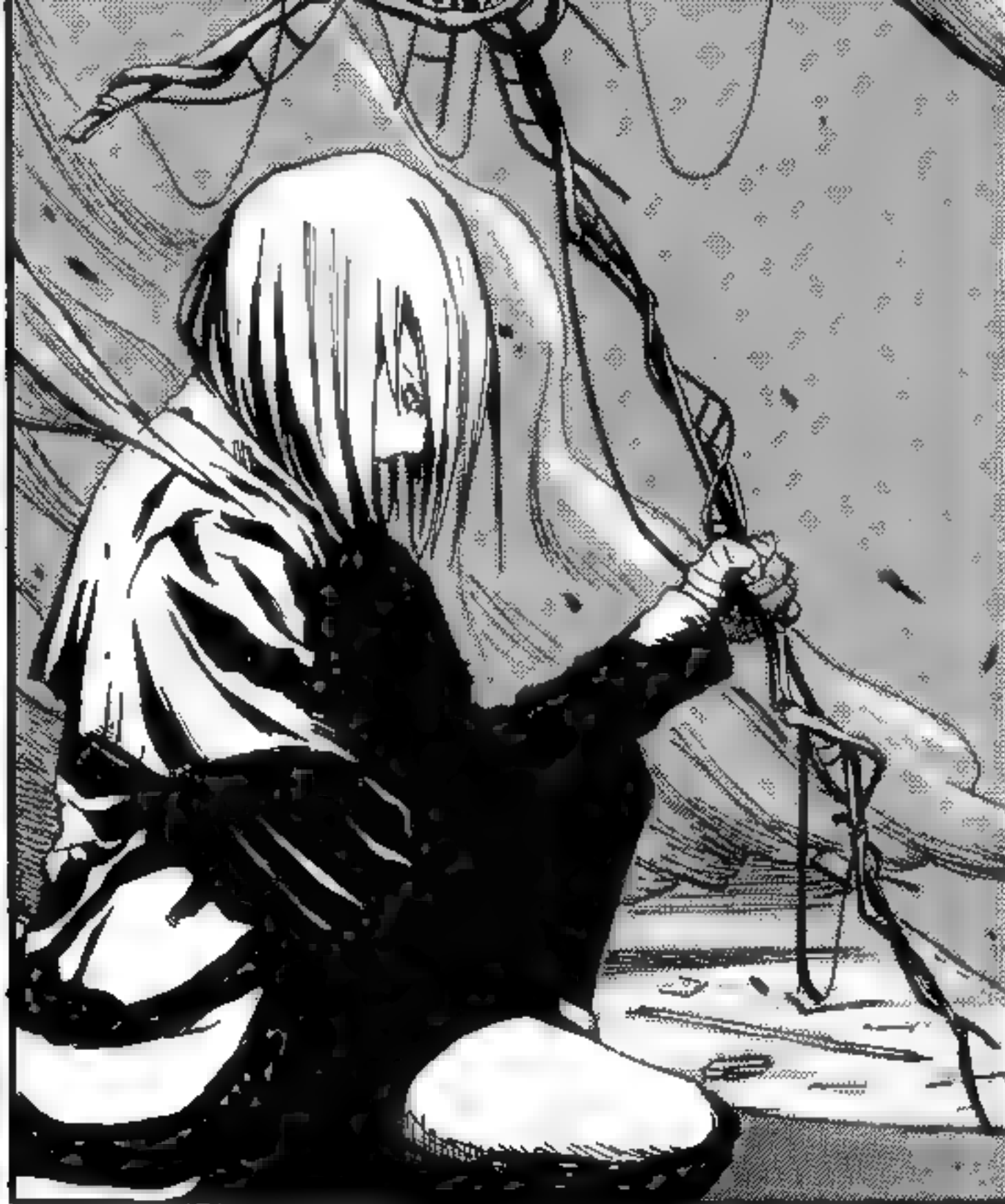
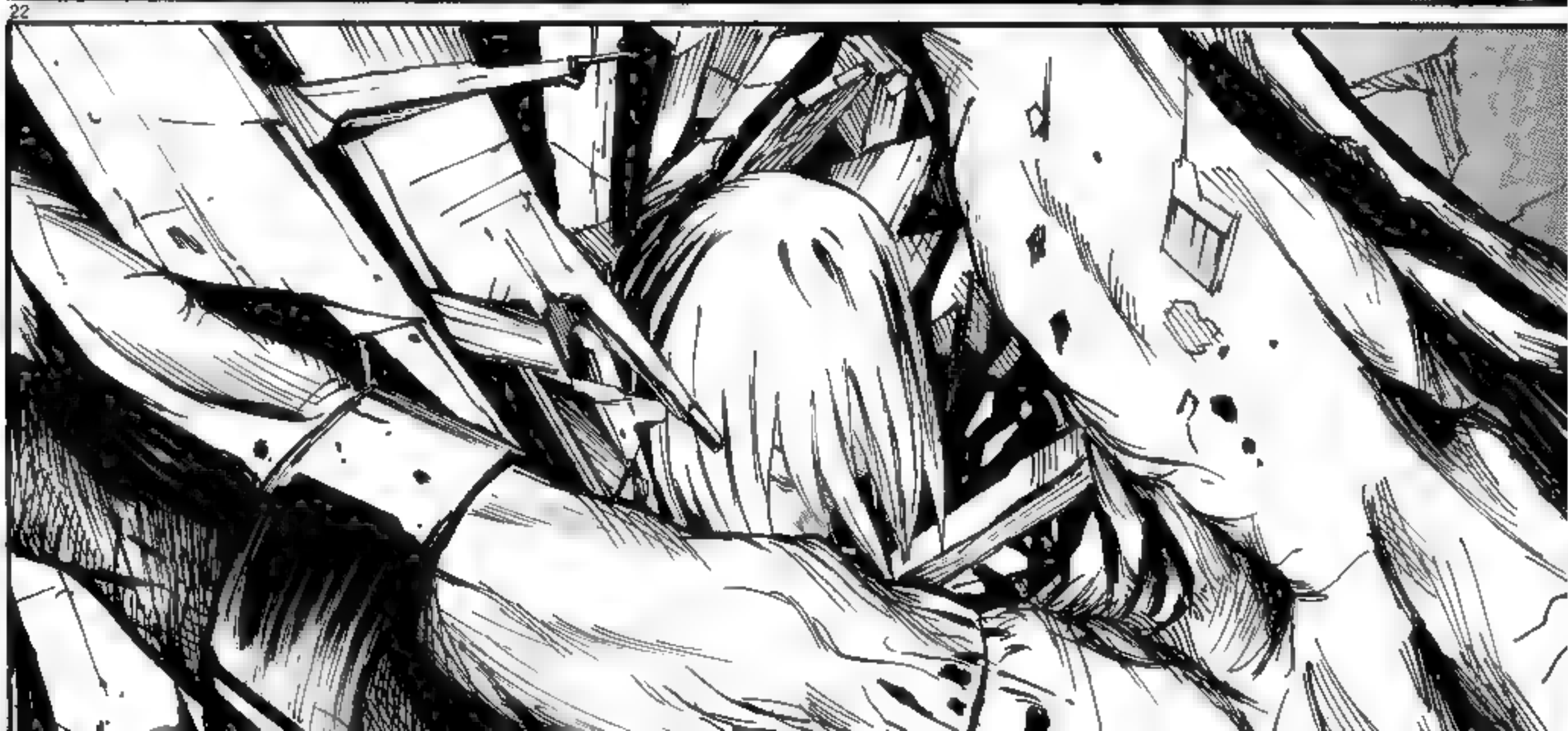
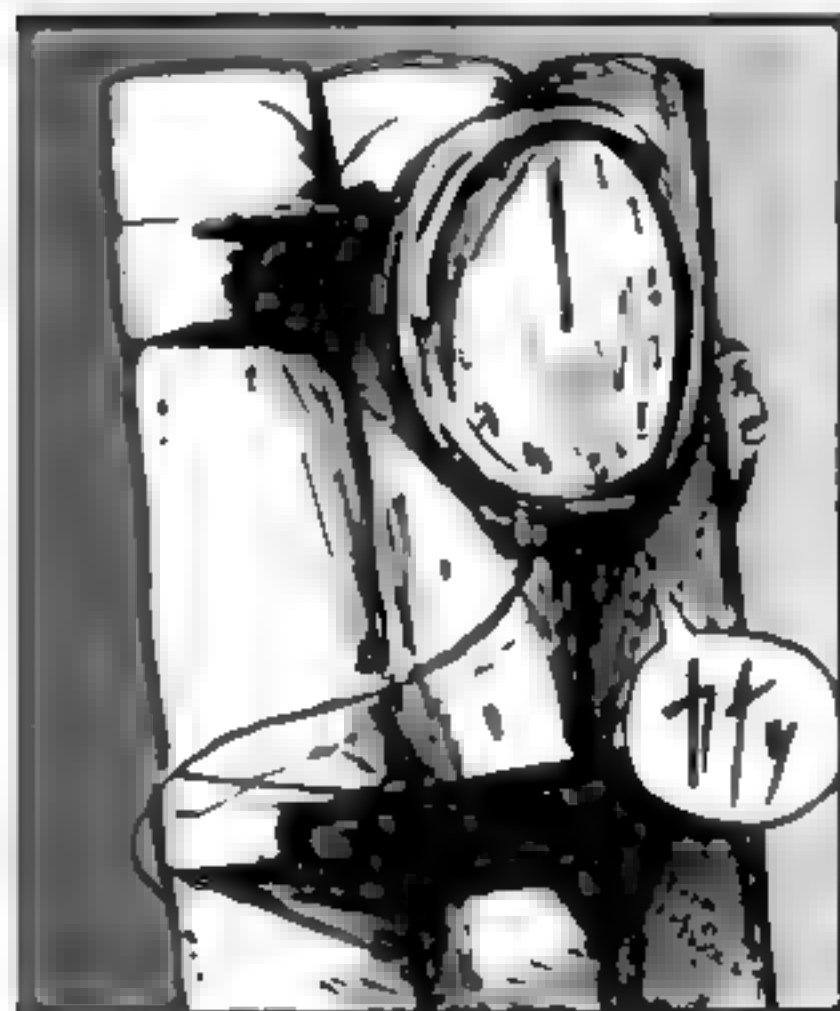
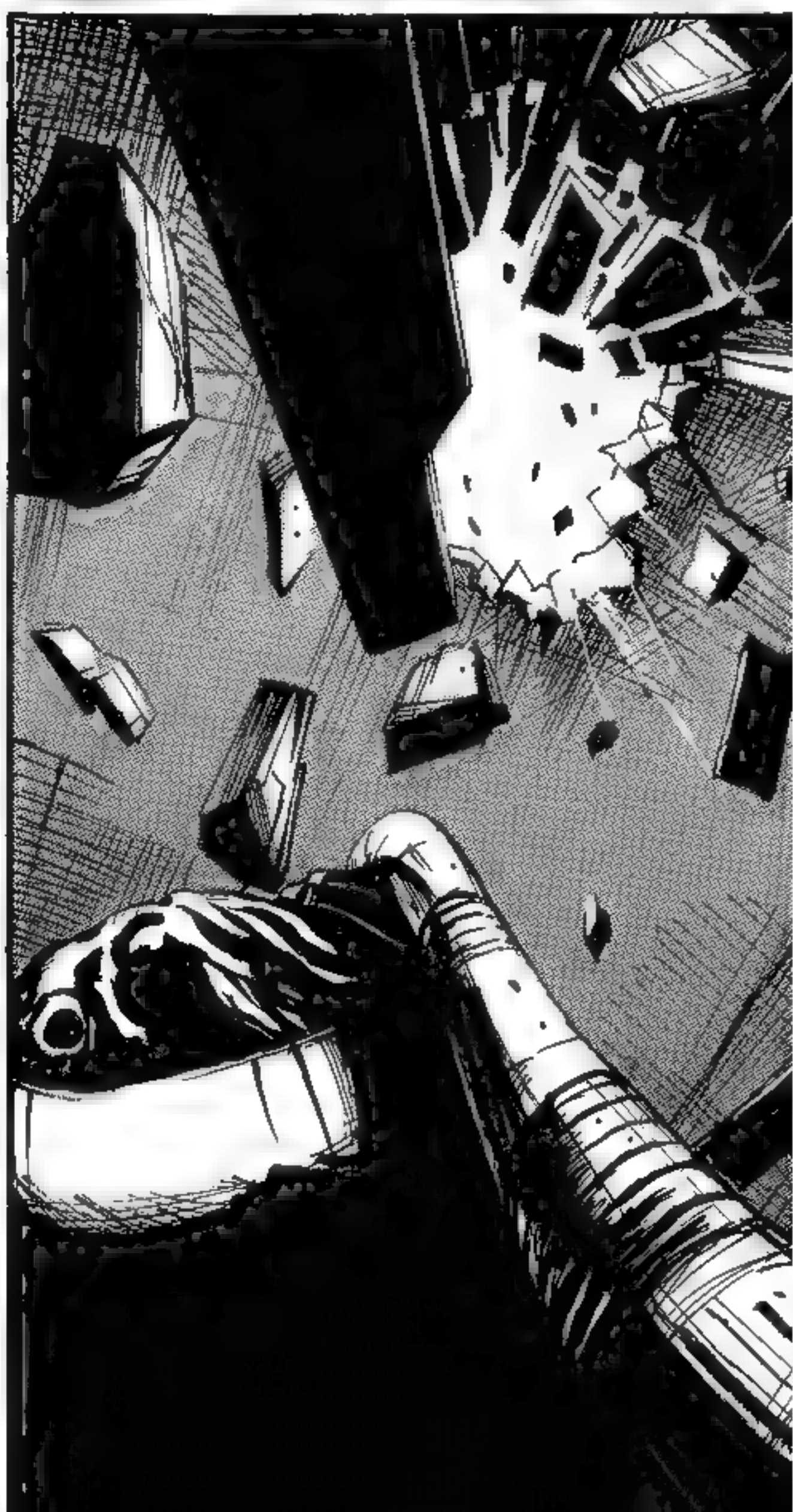
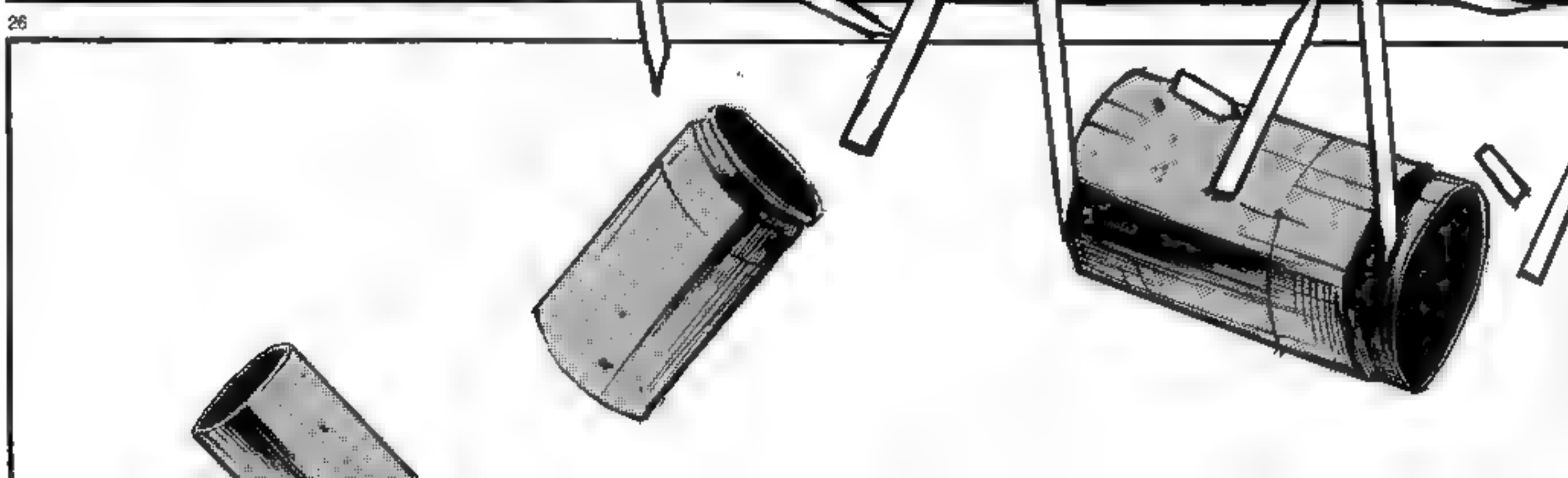
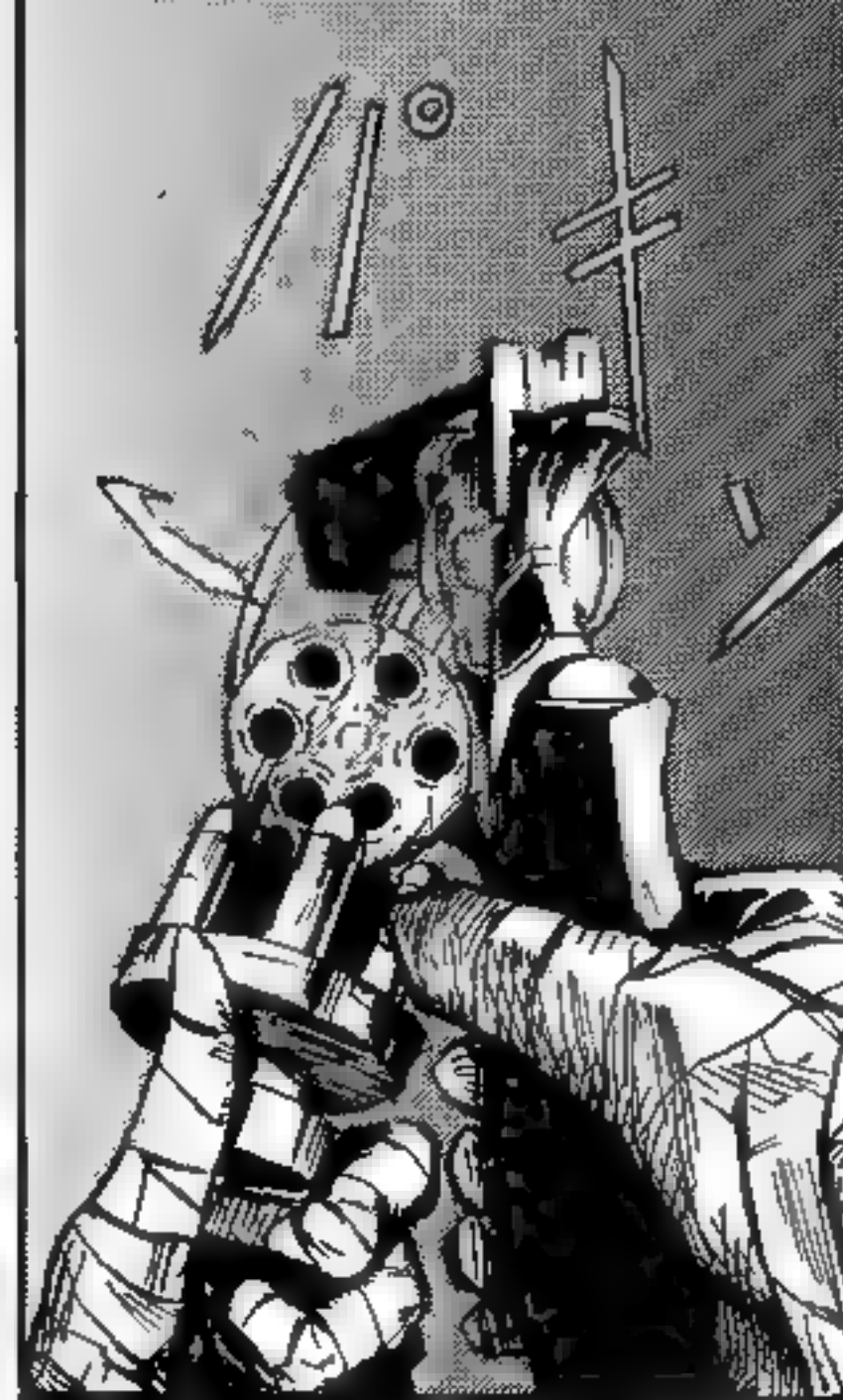
パキ

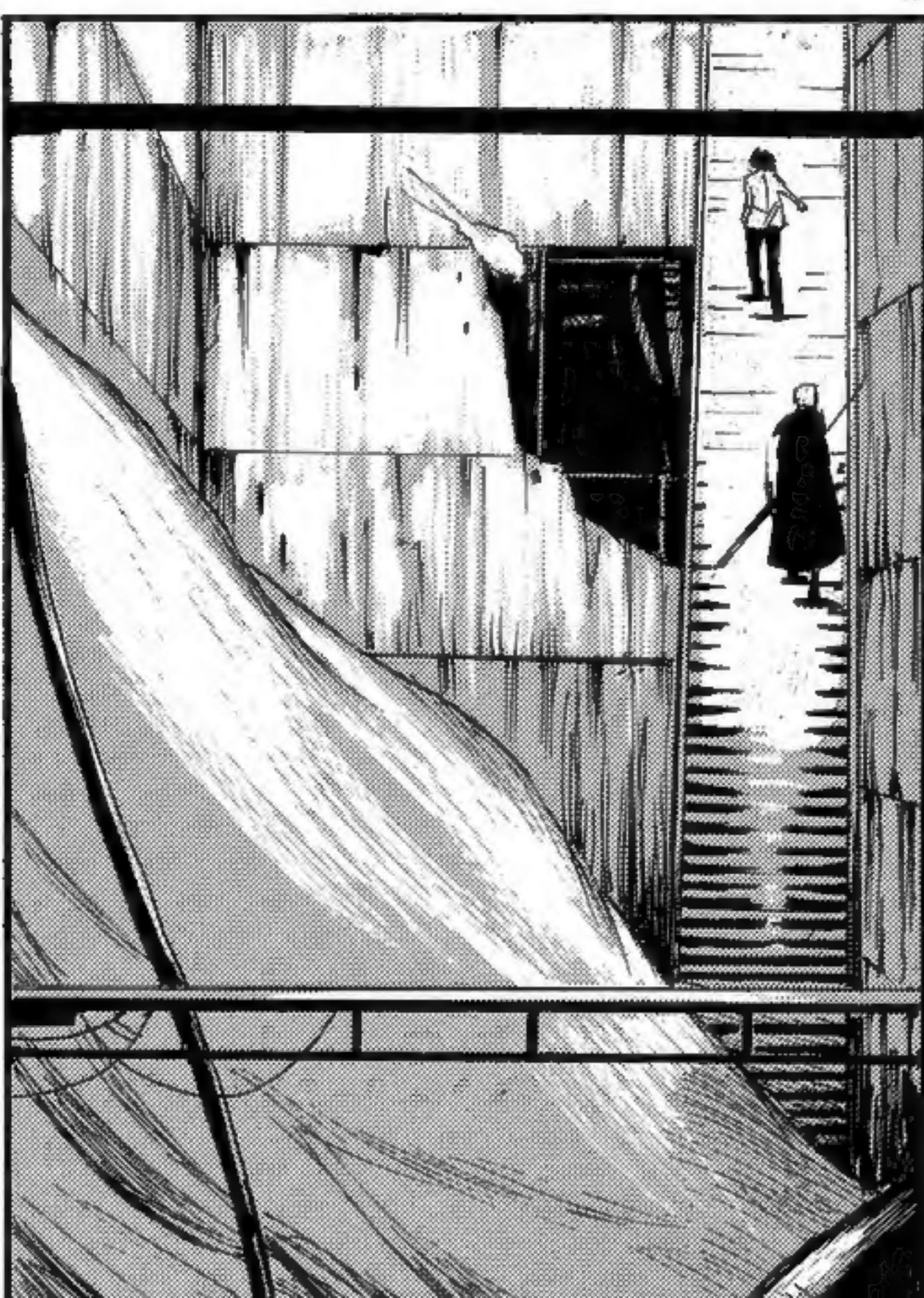
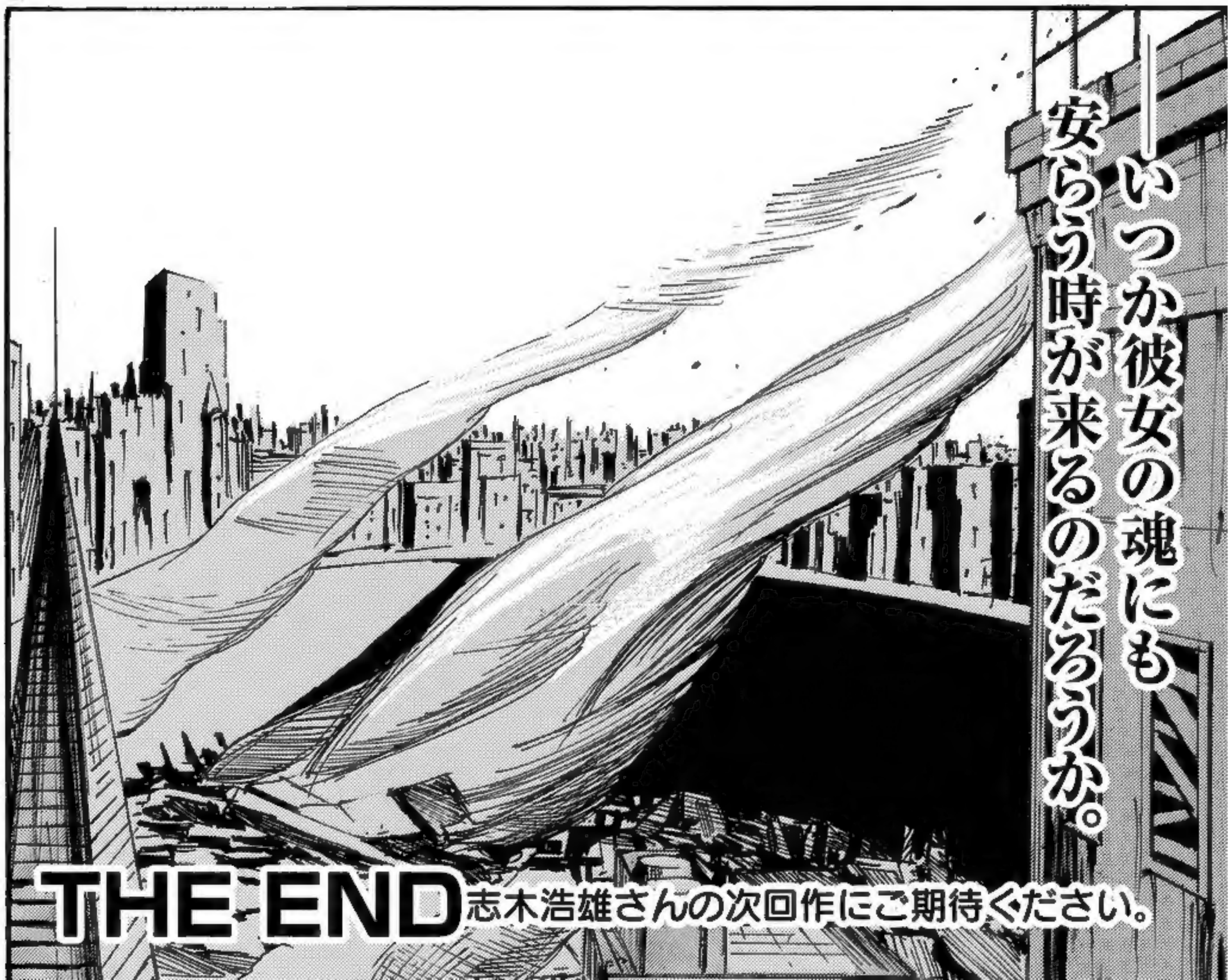
なんだ……

君だったのか……

27

……やってくれ

本当はこれが
見たくなかっただけ
なんだ

……ごめんなさい

不死かなんて関係ない
俺もいつか……

32

――いつか彼女の魂にも
安らう時が来るのだろうか。

THE END 志木浩雄さんの次回作にご期待ください。